

■ 巻頭言 ■

西暦2000年に寄せて

エネルギー・資源学会 副会長

摂南大学工学部教授

鈴木 胖



2000年という節目の年を迎えるにあたり、これまでの活動のご紹介と若干の抱負を述べ新年のご挨拶とさせていただきます。エネルギー・資源学会は1980年の設立から本年度で20周年を迎えることが出来ました。これも当学会の日ごろの活動に対する会員の皆様のご協力、ご支援のたまものと深く感謝いたします。新年早々の1月27日13時30分より虎ノ門パストラルにおいて、恒例のエネルギーシステム・経済・環境コンファレンスの機会をとらえ、創立20周年記念事業を開催いたします。記念講演、記念式典、記念パーティー、懸賞論文受賞者の表彰など多彩な内容を計画しておりますので会員の方々多数の参加をお願い申し上げます。

さて、エネルギー・資源学会は正会員約2,000人、特別会員約200社という比較的小規模の学会ですが、その特長は会員が広い専門分野にわたることと産官学の結集にあると考えます。

当学会では天然資源の入手可能性、エネルギーの有効利用、自然エネルギーの利用、CO₂の排出とその削減、環境影響評価、エネルギーと経済の相互依存関係、規制緩和などエネルギー利用にかかわる制度など、きわめて広範な問題に関し研究成果の発表、情報と意見の交換、講演・講習などの啓蒙活動を活発に行ってまいりました。学会のメインの行事である学術講演会、エネルギーシステム・経済・環境コンファレンスへの論文発表、参加者数も年々うなぎ登りに増えております。隔月に刊行している機関誌も広く他にない有用な情報を提供する学術雑誌として会員にご好評を頂いております。また調査研究プロジェクトでは、これまでにエネルギー貯蔵、リサイクル、エネルギー負荷平準化という時代のトピックを順次とりあげ、多くの企業にご参加いただくとともに、その成果をそれぞれ本にまとめ出版してまいりました。

国際活動についても国際会議の主催（過去2回）、海外調査団の派遣（同6回）、すぐれた論文の海外誌と連携した掲載など多角的に展開しています。

当学会がテーマとして掲げるエネルギー・資源の問題は、地球環境問題とも密接に関連しており、21世紀に人類が当面する最大の課題であると言っても決して過言ではありません。人類活動そのものが問題の根源にあり、問題解決には人類あげて幅広い叡智の結集が必要です。この意味で21世紀はまさに、これらの問題にかかわるわが国の学界、産業界、行政の専門家・有識者が広く集まるエネルギー・資源学会の出番であると考えます。大きな、解決に長期を要するこれらの問題に取り組むには若い力の結集が不可欠です。99年度には新進気鋭の若手を対象に一般からの参加を含めて夏の学校セミナーを開くなど新しい活動を開始しました。次年度から学生会員も設け、将来を担う若い人材の発掘に努力いたします。

最後に、学会を発展させるにはなんと言っても会員の増強が必要です。当学会の担う使命の重要性にかんがみ一層のご協力、ご支援をお願いいたします。